

SAPPORO



札幌大通地下ギャラリー
500m美術館
Sapporo Odori 500-m Underground Walkway Gallery

Vol.40

Fortune comes in by a merry gate

2022.11.19sat - 2023.1.11wed

岡 碧幸 | 菊地 和広 | 田口 虹太 | 只野(石倉)美萌菜 | 橋 雅也 | 深澤 孝史 | 祭 太郎 | 山口 哲志

<http://500m.jp>



岡 碧幸 Oka Miyuki

1994年札幌市生まれ。2020 Royal College of Art MA (IED) 修了。環境哲学と科学技術に関わる思索をもとに、現象/記録やデータ/フィクションを組み合わせたインスタレーションや映像、実験的デザインを扱う。北海道大学農学部卒、英ロイヤルカレッジオブアート情報体験デザイン修了。主な受賞歴にSTRP Award for Creative Technology(2020)、WIRED Creative Hack Award Grand Prix(2021)、展示歴に「遠い誰か、このありか」(札幌文化芸術交流センター SCARTS, 2021)



橋 雅也 Tachibana Masaya

1998年札幌市生まれ。2021北海道教育大学岩見沢校卒。日常生活の中で身近に感じる社会の動向や価値観への疑問、興味をテーマにそれらある種、啓蒙的な表現で制作活動をしている。主な展覧会に「手に取る宇宙 Message in a Bottle 銀河の旅 2022」(札幌、2022)など

Kikuchi Kazuhiro



菊地 和広

1974年生まれ、札幌市在住。グラフィックデザイナー。2010年より屋号「バックヤード」としてフリーで活動。広告、パッケージ、ロゴデザインのほか、札幌市内でZINEやリトルプレス販売イベント「NEVER MIND THE BOOKS」の主宰・企画や、自身のグラフィック作品による個展の開催など、その活動は多岐にわたる。JAGDA正会員、北海道芸術デザイン専門学校非常勤講師。賞歴: トルナバポスタートリエナーレ2012入賞、第22回ワルシャワポスタービエンナーレ2010入賞、ハートランド軽井沢ドローイングビエンナーレ2007入賞 など



深澤 孝史 Fukasawa Takafumi

1984年山梨県生まれ、札幌市在住。美術家。国内外さまざまな場所で活動を実施。主なプロジェクトに、雪国の共有地、祭、近代化をテーマにしたモニュメント「Snow tower」(越後妻有大地の芸術祭、2022)、山梨の丸石神信仰とそこから派生する芸術文化について巡るプロジェクト「道祖神リプレゼンテーション」(山梨アートプロジェクト、2021)、世田谷の精神障害通所施設ハーモニーにてメンバーの幻覚、妄想などを固有の現実とみなし、それらを追体験する「上町ハーモニーランド」(TURN LAND、2017)など

田口 虹太 Taguchi Kota



1999年札幌市生まれ、札幌市在住。Think School 制作コース 3・4期卒業。2021年0地点スタジオ創設。幼少の頃からファッションに関心を寄せ、衣服を通して社会との繋がりを模索し自身の気持ちの可視化を試みる。3DCGアニメーションと実写を組み合わせた映像を中心に制作を行う。主な展覧会に「Rimokon/リモコン」(ドイツ/ミュンヘン、2022)「TRADING HOME ie to you」GALLERY&SHOP VOU/棒(京都、2022)「シンクスクール2020卒業制作展」札幌市民交流プラザ SCARTSコート(札幌、2021)など

只野(石倉) 美萌菜 Tadano (Ishikura) Mimona



美術家。日常生活の中で感じる、見過ごせなかったり見過ごせてしまったりする違和感をきっかけに原因となっている大元を手繰り寄せる作業(主に悩んでいる様子)を平面や立体、刺繍などで表現している。2020年ごろより現在の苗字と前の苗字をカッコつきで名乗るようになった。順番はその時々で換えている。主な展覧会に「仙台藝術舎/creek修了展border」Gallery TURNAROUND(仙台市、2020)個展「やることやりたいことやんなきゃなんないこと」(CAI02/札幌、2016)「INTERNATIONAL WORKSHOP OF PAINTERS SYMPOSIUM OF LOCAL CULTURES」(ポーランド、2015)など

祭 太郎 Matsuri Taro



1997年北海道名寄市生まれ。美術家。生き辛さが故に20歳の時、ウサギの耳のかぶり物の姿で路上にて受け身をとりはじめる。自らの表現方法で身体の解放を体験し、目醒める。その後、祭太郎と名乗り、現代におけるハレとケ(非日常と日常)について考察しながら道化師のように振舞う。表現方法は一つにとらわれず、美術では絵画、映像、インスタレーション等を展開。近年は鍼灸師の活動を始め、生き方の真髄を探究している。主な展覧会に「BENIZAKURA PARK ART Annual2018」紅樓公園(札幌、2018)個展「kunzu Hoguretsu 組んぞ解れう」グンズホグレス」(CAI02、札幌、2017)など

山口 哲志 Yamaguchi Satoshi

大学卒業後は立体作品を中心に制作発表を続ける。2001年より企画展を「自らの作品のひとつ」として開催。現在はイラストレーション・イベントディレクターとして、さまざまな自主イベントの企画開催の他、広告イラストレーション、イベント、ご当地キャラクター制作や各種ゲームグラフィック制作など、ゲーム、コミック系イラスト制作のディレクション、コーディネートを行う



〇ご来場いただいた方を対象にWEBアンケートを実施しております。今後のより良い企画運営のため、ご協力をお願いいたします。



回答方法

スマートフォンやパソコンを使って下記URL又はQRコードからアクセスしご回答ください。
https://www.city.sapporo.jp/shimbin/bunka/500mbijutukan/2022_questionnaire500m.html

(札幌市公式HP ホーム>教育・文化・スポーツ>文化・芸術>札幌市所管の文化施設について(指定管理者制度など)>札幌大通地下ギャラリー「500m美術館」)



さっぽろ市
02-005-22-331
R4-2-252

札幌大通地下ギャラリー500m美術館(札幌市中央区大通西1丁目一大通東2丁目(地下鉄大通駅と地下鉄東西線バスセンター前駅間の地下コンコース))
時間 7:30—22:00 主催:札幌市市民文化局 文化部文化振興課 企画運営:有限会社クンスト/CAI現代芸術研究所/CAI03、一般社団法人 PROJECTA